

## キュウリ抑制栽培における褐斑病の初発時期と初期防除による A 品収量維持

[要約] 県内のキュウリ抑制栽培（7月中旬～下旬定植）では、褐斑病は8月中旬～下旬に初発生する。その後の発病進展を抑制し、A品果実の収量を維持するためには、初発生直後の薬剤散布が必要である。

農業総合センター園芸研究所	成果 区分	普及（普及）
---------------	----------	--------

### 1. 背景・ねらい

県内で栽培早期より多発生して問題となっているキュウリ褐斑病について、初発生時期を明らかにするとともに、現行の防除体系の問題点を検討し、有効な防除体系を確立する。

### 2. 成果の内容・特徴

1) 県内のキュウリ抑制栽培（7月中旬～下旬定植）では、褐斑病は8月中旬～下旬に初発生が認められる（表1）。平成17年と18年の調査において、延べ9圃場中5圃場では初発生確認直後に褐斑病対象の薬剤防除を行っていない。これら5圃場では9月上旬の発病度が高い。

2) 褐斑病に対して効果の高い薬剤を初発生が認められた直後の8月中旬に散布する防除体系Ⅰ区では、散布しない防除体系Ⅱ区および対照区と比較し、発病度は低く推移する（図1）。また、防除体系Ⅱ区では防除体系Ⅰ区より9月19日までのA品果実総収量（本/株）は約2割の減収となる。

### 3. 成果の活用面・留意点

1) 8月中旬～下旬は褐斑病の発生を注意深く観察し、発生を認めたら直ちに効果が高いマンゼブ水和剤やポリカーバメート水和剤等を散布する。

2) 8月下旬以降は褐斑病の発生に注意し、発生が認められたら早期にフルジオキシニル水和剤やジエトフェンカルブ・プロシミドン水和剤等の薬剤を7～10日間隔で散布する。

3) 県下全域のキュウリ栽培農家を対象とする。

#### 4. 具体的なデータ

表 1 調査圃場における褐斑病の初発生確認日及び初期防除実施の有無

調査年	調査圃場名 <sup>1)</sup>	定植日	初発生確認日 <sup>2)</sup>	初発生確認から5日以内での褐斑病に有効な成分を含む薬剤の散布状況	9月上旬の発病率率 (%)
平成 17 年	筑西市 A	7 月 23 日	8 月 12 日	シメキサニル・マンゼブ <sup>®</sup> (8 月 15 日)	17
	筑西市 B	7 月 21 日	8 月 26 日	ジエトフェンカルブ・プロシメト <sup>®</sup> (8 月 30 日)	14
	筑西市 C	7 月 24 日	8 月 16 日	-	90
	筑西市 D	7 月 22 日	8 月 17 日	-	94
	筑西市 E	7 月 24 日	8 月 27 日	-	45
平成 18 年	筑西市 B	7 月 23 日	8 月 16 日	-	77
	筑西市 E	7 月 23 日	8 月 16 日	-	99
	かすみがうら市 A	7 月 28 日	8 月 14 日	TPN (8 月 18 日)	15
	かすみがうら市 B	7 月 31 日	8 月 12 日	イミダジン酢酸塩・ポリカシ <sup>®</sup> 、TPN (8 月 13 日)、ポリカーバメート (8 月 16 日)	19

1) 栽培品種：筑西市の延べ7圃場が「大将」、かすみがうら市の2圃場が「エクセレント節成2号」

2) 農家への聞き取りにより調査した。

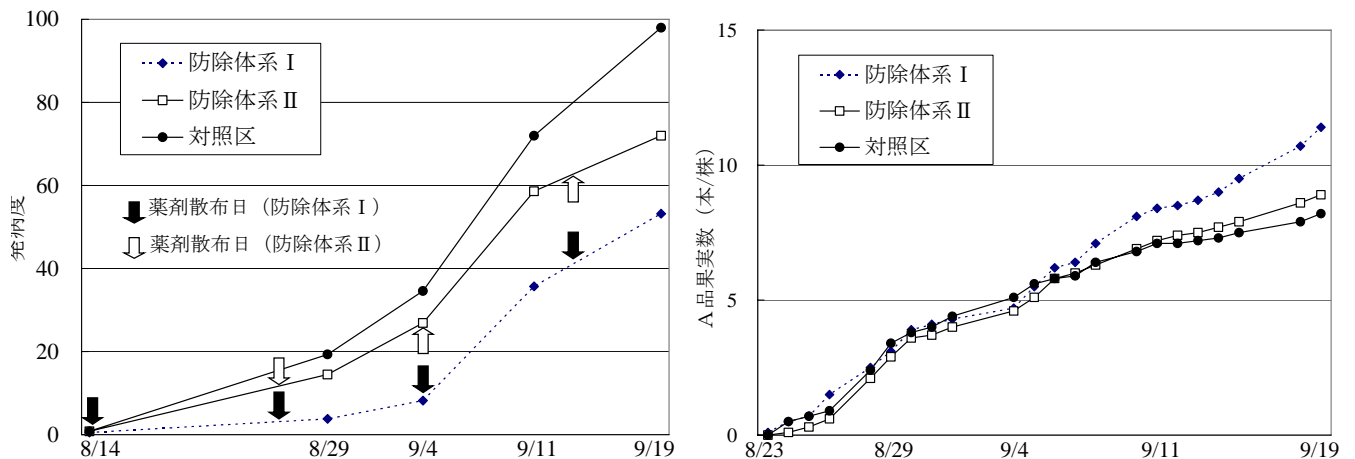


図 1 所内ビニルハウスにおける初発直後の防除の有無によるキュウリ褐斑病の発生推移 (左図) とキュウリ A 品果実総収量の推移 (右図)

左図：防除体系 I 区（黒塗り矢印）…8 月 14 日に褐斑病の初発生を確認し薬剤を散布した。その後、褐斑病対象の防除は、JA 全農いばらきによる抑制キュウリ病害虫防除暦に準じた。

防除体系 II 区（白抜き矢印）…褐斑病対象の防除は、JA 全農いばらきによる抑制キュウリ病害虫防除暦に準じた。

右図：A 品…曲がりか 1.5cm 以下で、その他異常が見られない果実。  
栽培品種：「大将」、台木：「エキサイト一輝」、定植：平成 18 年 7 月 27 日

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

キュウリ褐斑病の多発生要因の解明と防除法の確立・平成 17～19 年度・病虫研究室